

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 長岡福祉協会	代表者	田宮崇	法人・ 事業所 の特徴	自分や家族・友人が利用したいと思うサービスを提供します。 通所・宿泊・訪問この3つを自由にその方にとって必要な支援を組み合わせ、その時の体調や状況によって柔軟なサービスを提供しています
事業所名	小規模多機能型居宅 介護アネックス関原	管理者	池田愛美		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	3人	1人	1人	1人	人	2人	人	10人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	情報共有は、連絡帳を活用する。定期的にミーティングを行い意見交換や情報共有を行う。	出来る限り、ミーティングにて情報を共有することに努めていた。訪問時、家族と積極的にコミュニケーションを取るよう努めた。	スタッフが事業所自己評価に取り組んでいることが確認できた。運営推進会議が開催されない中で評価がわかりにくい。内容をコロナ禍の中で変更できないか確認してほしい。	継続して情報共有は連絡帳を活用する。定期的にミーティングを行い事業所自己評価についてスタッフの意見が反映できるように情報共有や意見交換を行う。
B. 事業所のしつらえ・環境	定期的に地域の茶の間を行い、地域の方々との交流を図る。テラスの開放の継続。	コロナウイルス感染予防のために地域との関わりを持つ事が最小限となった。その中でもできる限り地域の取り組みに参加する努力は行っていた。	コロナが落ち着いたらまた茶の間を再開して欲しい。事業所のしつらえや環境に問題はない。居心地の良い場所かどうかは訪問していないのでわかりません。	事業所の顔でもある玄関やテラスを季節感ある入りやすい環境整備に努める。
C. 事業所と地域のかかわり	地域の行事に積極的に参加する。地域の茶の間の継続を行う。テラスの開放を行い、地域の皆様との交流を図る。小規模多機能の事業所の啓発活動の継続。	クリーン作戦にも参加している。コロナウイルス感染予防のために地域の行事には参加できなかった。できないことを計画しても意味がないのではないかと。	地域に開放されて入りやすい雰囲気がある。今だからできる地域との関わり方の工夫が必要ではないか。広報誌は内容が楽しく分かりやすい物が良い。	地域との関り広報委員を選出する。定期的に情報発信の広報誌を地域に配布する。地域のクリーン作戦へ参加する。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	運営推進会議を利用して地域の情報収集を行う。地域のイベントに参加する。地域の茶の間を利用して心配事や情報収集を行う。	運営推進会議が書面開催となり情報収集が難しい。徐々に制限がなくなれば出向く準備を整えている。	地域のイベントがない中で回答しづらい。出来る限り外出してその中で地域の方に声をかけたりかけられたり等の取り組みはできていた。	運営推進会議を利用して地域の情報収集を行う。地域の茶の間をいつでも再開できるように準備を行う。

E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議を利用して地域や事業所の心配な方等の情報収集や意見交換を行う。	書面開催なので事例検討は行っていない。今後開催されるので検討できるのではないか。	町内会の役員が男性が多いのできめ細かい情報があがってこない。民生委員との情報交換を行い地域で困っていることがあれば協力していく。事業所で抱えている問題も運営推進会議を通じて相談したい。	運営推進会議の資料を分かりやすく写真を入れる等の工夫を行い事業所の取り組み内容が伝わるようにする。
F. 事業所の防災・災害対策	地域の方に福祉避難所であることの啓発活動を継続していく。地域の方も交えた避難訓練を行う。	事業所が福祉避難所であることは周知されている。災害があった時は高齢者や障害者には心強い。	事業所の防災計画は今後も検討していく方が良い。避難訓練に関しては運営推進会議の中で行う。事業所の訓練にも声をかけてもらえば参加したいと思います。	地域の防災訓練に参加する。地域の方を交えた避難訓練を行う。